

| | |
|--------|---|
| 学校教育目標 | 自他を大切にして主体的に学び、生きる力をはぐむ児童の育成 |
| 目指す学校像 | 分かる授業を追求する「楽しい学校」 自他を大切にし、感動する心を磨く「優しい学校」 進んで運動し、心も鍛える「元気な学校」 児童・保護者・地域の思いを大切にする「愛される学校」 持続可能な働き方を工夫し、資質向上を図る「働きがいのある学校」 |
| 重点目標 | 1 主体的・対話的に学び続ける児童を育成するため、学習者主体の授業改革を実現する。 2 誰一人取り残さない教育を実現するためのカリキュラム・マネジメントを充実させる。 3 コミュニティ・スクールとスクールサポートネットワークを一体的に推進する。 4 校内の危機管理の意識を高め、全児童に自助の意識を向上させる。 5 本校の課題に応じた実効性のある校内研修を充実させ、教職員の資質・能力を向上させる。 |

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | | |
|-----|---|-------|--------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 | (8割以上) |
| | B | 概ね達成 | (6割以上) |
| | C | 変化の兆し | (4割以上) |
| | D | 不十分 | (4割未満) |

| 年度 | | 学校自己評価 | | | 年度評価 | | 学校運営協議会による評価 | |
|----|---|--|---|--|---|-----|--|--|
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 実施日令和8年2月19日 |
| 1 | (現状) ○児童がタブレットを活用し共同編集等を行うことで、友達のことを自分の考えに生かすなど協働的に学ぶ様子が見られるようになってきた。 ○学校課題研究を中心に、各教科等で児童に付けた力を明確にした上で、指導方法の工夫改善を進めている。 (課題) ○全国学力・学習状況調査、また市学習状況調査の結果、国語・社会・算数・理科において市・全国平均と比べて、10p程度低い項目がある。 | ・学習者が主体となるような指導方法の工夫改善 ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着 | ①学校課題研究として、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」を軸に研究を進める。 ②児童がスクールダッシュボードによる授業の振り返りを確実に行うことで指導と評価の一体化を図る。 ③学力向上タイムの効果的な活用、家庭学習の取り組み方等について研究し、学校全体で取り組む。 ④市教委の学力向上カウンセラー研修を実施し、学力向上に向けた効果的な手立てを研究する。 | ・教職員の学校評価「授業改善が実践できたか」の肯定的回答の割合を9割とし、「特にそう思う」の肯定的回答の割合を向上させる。 ・市学習状況調査の主に国語・算数の平均正答率を向上させる。 ・学校評価の家庭学習の取り組み方の質問において「よく取り組んでいる」の割合を3割程度上昇させる。 | ・「授業改善が実践できたか」の肯定的回答の割合は9割以上、「特にそう思う」と回答した割合は3割程度であった。全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果などを分析し、付けた力を明確にして授業改善を進める。 ・家庭学習の取り組み方の質問において肯定的回答の割合は7割程度であった。家庭学習については意義を見直し、充実を図る。 | B | ・本校児童の課題や付けた力を明確にするために、継続して全国及び本市の学習状況調査に係る分析を進める。 ・学校課題研究において、児童が主体的に学習に取り組めるような、学習者主体の授業改善を推進する。 ・「学力向上チーム」で学力向上タイムや家庭学習の取り組み方等について研究し、実践する。 | ・令和8年度からはタブレットが新しくなり、学習における活用方法についてさらに工夫改善が求められる。デジタルとリアルをバランスよく取り入れ、学力向上につながる授業改善を進めていただきたい。 |
| 2 | (現状) ○学校評価における保護者・教職員の「いじめのない学校づくり」に係る項目での肯定的回答については、共に8~9割程度であった。 ○教育相談主任、特別支援教育コーディネーターを中心に、SC、SSWを交えながら支援体制を整えている。 (課題) ○発達指示的生徒指導の充実を図り、ユニバーサルデザインを踏まえた授業、学級経営を実践する。 ○いじめ等の問題については、覚知後、迅速に対策委員会を開催し、組織的な対応を徹底する。 | ・児童一人一人に応じた丁寧できめ細かい指導、支援体制の充実 ・発達指示的生徒指導の充実 | ①いじめ問題等に対して、いじめ防止基本方針に基づき、組織的に対応する。 ②日常の児童観察、個別面談、心と生活のアンケート等で得た情報を共有し、個別の支援・指導に役立てる。 ③ききょうルーム(太田小so-laルーム)を効果的に運営し、個別の支援を充実させる。 ④児童委員会等によるいじめ撲滅の取組等を計画的に実施し、児童の自発的・主体的活動を発達させる。 | ・学校評価の「いじめのない学校づくり」に係る項目で、保護者の肯定的回答の割合を9割程度とする。 ・学校評価の「心と生活のアンケートの結果を基に児童への対応ができたか」の項目で、教職員の肯定的回答を9割以上とする。 ・ききょうルームを効果的に運営し、個別の支援の充実を図ることができたか。 ・いじめの予防に係る活動に主体的に取り組む児童の育成を図ることができたか。 | ・「いじめのない学校づくり」に係る項目の肯定的回答の割合は9割程度で「特にそう思う」と回答した割合は5割程度と昨年度より2割程度上昇した。 ・「心と生活のアンケートの結果を基に児童への対応ができたか」の肯定的回答は9割程度であった。 ・ききょうルームについては、利用している児童の実態に応じて継続的に支援することができた。 ・いじめ撲滅強化月間や随時の指導を徹底し、いじめの予防に対する意識を高めることができた。 | A | ・「太田小学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめに係る事案には早期発見・継続的な指導・見守りを徹底する。 ・「心と生活のアンケート」をはじめとした児童アンケートや児童・保護者への面談などをとおして、いじめを見逃さない体制づくりを徹底する。 ・継続してききょうルームを運営できるよう、地域の方の協力をいただきながら、環境整備や人員の配置を進めていく。 ・発達指示的生徒指導の充実を図り、ユニバーサルデザインを踏まえた授業、学級経営を実践する。 | ・学校は、いじめ基本方針に基づいて、いじめの早期発見、継続した見守りを行っていることを理解している。 ・いじめの対応について、関係保護者同士の関係の希薄さも対応の難しさにつながっていると考え、いじめ等の対応について一層の保護者との協力体制づくりが必要である。 |
| 3 | (現状) ○岩槻小・岩槻中と本校の3校合同で、学校運営協議会を組織し、岩槻中学校区で児童・生徒に身に付けさせたい力の具現化について熟議を重ねている。 ○児童による地域行事の積極的な参加の質問における肯定的回答は8割程度であった。 (課題) ○コミュニティ・スクールの意義や効果、必要性等について、学校(職員・児童)・家庭・地域で理解を深めていくことが重要である。 | ・地域や保護者と連携・協働を図った教育活動の推進 ・地域を愛する児童の育成 | ①校長講話・研修・地域講師の授業等を通して、教職員・児童・保護者にコミュニティ・スクールに対する理解を深める。 ②学校HP、スクリーン等を通して、本校の学習支援・防犯・図書等のSSNボランティアの取組を拡大していく。 ③カリキュラム・マネジメントを意識し、地域講師を招聘しての体験的な学習の充実を図る。 ④地域行事の案内を積極的に行い、児童の参加を促す。 | ・学校評価における「地域に開かれた学校づくりに努めているか」の項目で、教職員・児童・保護者の肯定的回答の割合を9割以上にする。 ・市学習状況調査における地域の活動に参加できたかの項目において、児童の肯定的回答の割合を8割以上とする。 | ・「地域に開かれた学校づくりに努めているか」の肯定的回答の割合は9割以上であった。 ・学校の取組については随時学校HPに掲載し、併せてスクリーン等でも周知した。地域・保護者への教育活動に対する理解が広がった。 ・市学習状況調査における地域の活動に参加できたかの項目において、児童の肯定的評価については8割程度であった。 | A | ・学校運営協議会、スクールサポートネットワーク連絡協議会を通じて、地域講師の依頼や地域の力を生かした取組を積極的に行い継続的な支援や指導を依頼する。 ・児童に地域行事の積極的な参加を促したり、授業に地域講師を招聘したりするなど、児童に自分と地域とのつながりを意識させる。 | ・今年度は子どもたちが主体となる活動がよく見られ、地域と学校のつながりを意識する機会が増えた。 コミュニティ・スクールの意義や効果、必要性等についてはHP、学校だより、広報紙、スクリーン、SSN連絡協議会などを活用し、理解を深めていくことが重要である。 |
| 4 | ○学校施設・設備の安全の確保については、教職員で毎月点検を行い、組織的に対応している。施設不備による児童の事故事案は発生していない。 (課題) ○学校施設における修繕が必要な箇所が複数あるため、予算や優先度を考慮し対応する必要がある。 ○児童が自分の身を守る行動を習慣できるよう、安全意識を高めることが重要である。 | ・通常教室及び特別教室等の安全管理の徹底 ・自助の意識を高める安全教育の充実 | ①担任及び管理職による教室等の定期的な目視・安全点検を確実に実施する。 ②理科の実験など、授業の内容に応じた安全指導・安全対策等を徹底する。 ③危機管理マニュアルを基に、計画的に避難訓練、交通安全教室、学校保健委員会等を実施する。 ④授業中・その他活動状況に応じた訓練を実施し、訓練後の振り返りを確実に行う。 | ・通常教室及び特別教室の整理整頓、安全な環境づくりを実施することができたか。 ・教科等における安全指導を徹底できたか。 ・学校評価における安全指導の項目で肯定的回答の割合を8割以上とする。 | ・毎月の安全点検や備品等の確認を行うことで、安全な環境を整備することができた。 ・ブリーフィングや準備を丁寧に行うことで教科等における安全指導を徹底することができた。 ・「健康・安全に気を付ける意識、態度は育っているか」の肯定的回答の割合は9割程度であった。 | A | ・児童の安全な教育活動を保証できるよう、施設管理や安全点検、授業での配慮事項の確認などを徹底する。 ・地震、火災、竜巻等の災害や不審者対応など計画的に避難訓練等を実施し、児童の一層の安全意識の向上を図る。 | ・施設の安全管理については、子どもの安全確保が第一なので迅速に修繕・改修をお願いしたい。 ・避難訓練等については、計画的に行い、子どもたちが自分の身は自分で守るという意識を高めてもらいたい。 |
| 5 | (現状) ○学力向上、人権教育、いじめ対策、特別支援教育等、教育に係る様々な課題についての研修を計画的に実施している。 ○中・高学年での教科担任制実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができています。 (課題) ○自身のキャリア段階に応じて、資質能力の向上に係る研修会等に積極的に参加することが求められる。 | ・業務改善と校内研修の充実により、教職員の資質・能力を向上させる。 | ①教科担任制等、教員の専門性を生かした教育活動を進める。 ②人事評価を活用し、教職員一人ひとりがキャリアアップできるよう、学校経営方針とリンクした個人目標を設定させ、積極的に学校運営に参加させる。 ③校内研修を積極的に実施し、教員による課題別のOJTを推進する。 | ・教職員の意識調査における学校及び自身の業務改善の項目で「負担軽減にとてもつながっている」の割合を2割程度上昇させる。 ・各々のキャリアを意識して、互いに資質を高め合う教職員集団を実現する。 | ・教職員の意識調査における学校及び自身の業務改善の項目で「負担軽減にとてもつながっている」の割合は3割程度であった。 ・研修会や授業研究会の受講、参加を推奨したことで、自身のキャリアアップにつながる教職員が増えた。 | B | ・カリキュラム・マネジメントを意識した働き方改革を意識して、学校全体での取組、個人でできる取組などについて協議し具体的方策を研究する。 ・人事評価を活用し、働き方改革を意識した上で、教職員一人ひとりがキャリアアップできるよう個人目標を設定させ、積極的に学校運営に参加させる。 | ・学校運営協議会等で話を聞く度に教員という仕事に敬意をもつ。 ・業務が大変なことは十分理解できるので、教職員が心身ともに健康で業務に当たられるよう管理職によるマネジメントを期待したい。 |